

記念碑と記念広場

高知県南国市・日章開拓地

高知県南国（なんこく）市の高知空港の前身は、1944（昭和19）年に設置された日本海軍の日章（にっしょう）第一海軍航空基地。空港と南西の水田地帯との間に、日章開拓農協が建立した記念碑などがある。

41年、海軍は香美郡三島村（当時）に航空基地を建設するため、2184反の土地を接收。263戸、1500人余りの住民は急遽、退去を命じられた。翌年、人口が激減した三島村は、同郡の田村、立田村と合併し、日章村（現・南国市の物部川河口部）が発足した。

終戦後、一部の農地が元・住民に返還された。農地に戻すために、住民らは日章開拓農協を設立。組合員は、失った古里の再興のため、汗にまみれ、ひたすら開拓の鋤（くわ）をとった。

しかし、国と県は、859反を高知大学の設立用地、空港用地などに決定。組合員の全土払い下げの悲願は断たれた。さらに83年、滑走路の延長や空港敷地の拡張が行われた。2年後、開拓農協は解散することになった。

85年3月、農協解散に際し建立された記念碑の刻銘は「開拓記念碑」（写真④）。碑文には開拓の沿革が記してあり、末尾に「思えば半生 時の流れには抗し難し 古里再び旧に還らぬ いまはただ来る世の礎石となりせめて学究の若者達の開ける道と県土夜明けの空の道とならんことを」と刻まれている。

近くに、日章開拓農協が同年同月に設けた広場があり、石碑「記念広場」が建立されている（写真⑤）。裏面には、唱歌「ふるさと」の歌詩と広場の由来が記されている。

・高知県 南国市 日章開拓地区

「開拓記念碑」 昭和60年3月 日章開拓農業協同組合

※高知空港の南西側に面し、水田地帯との間に位置する。近くに日章開拓記念広場がある。

（碑文）

この地は明治二十二年七月物部久枝下島三村が相寄って誕生し香美郡に属した元の三島の里である 沃土は農を興し黒潮に恵まれて文化の香り高く県下屈指の優良村となって栄えた

秋田川の流れは老若に憩を授け鎮守室岡山は白鳳から明治にわたる数多い津波洪水に村人避難の神域となり命山と呼んでその信を集めた

第二次世界戦争の予兆濃い昭和十六年早々日本海軍はここに航空基地を建設す 総面積二一八四反を接收 二六三戸 一五〇〇余の住民ら急遽退去を命ぜられる 人々互いに別れを惜しみ父祖の霊位を抱き慌しく村を去る 翌十七年日章村発足となる 年を経ずして敗れて戦は終り接收土地の還元を見る 縁りの者らは組合をつくり失った古里再興に祈りをこめ 汗にまみれ苦難を乗り越えて只管開拓の鋤をとる 退去を急がれた寸土を守り続けた者達も一つの思いに力をあわせた

しかるにすでに国県は八五九反を高知大学 空港用地と決定し われら農民の全土払下げへの悲願を断つ 続いて工専が開設され さらには今次空港の再拡張となり開拓の面影は潰え去るに至った 「思えば半生 時の流れには抗し難し 古里再び旧に還らぬ

いまはただ来る世の礎石となりせめて学究の若者達の開ける道と県土夜明けの空の道とならんことを」

茲に組合を閉ざすに当り後世のため碑を建て沿革の大略を誌す

元日章村長 元県会議長 西内四郎 撰書 日章開拓農業協同組合

昭和六十年三月

(開拓記念碑)

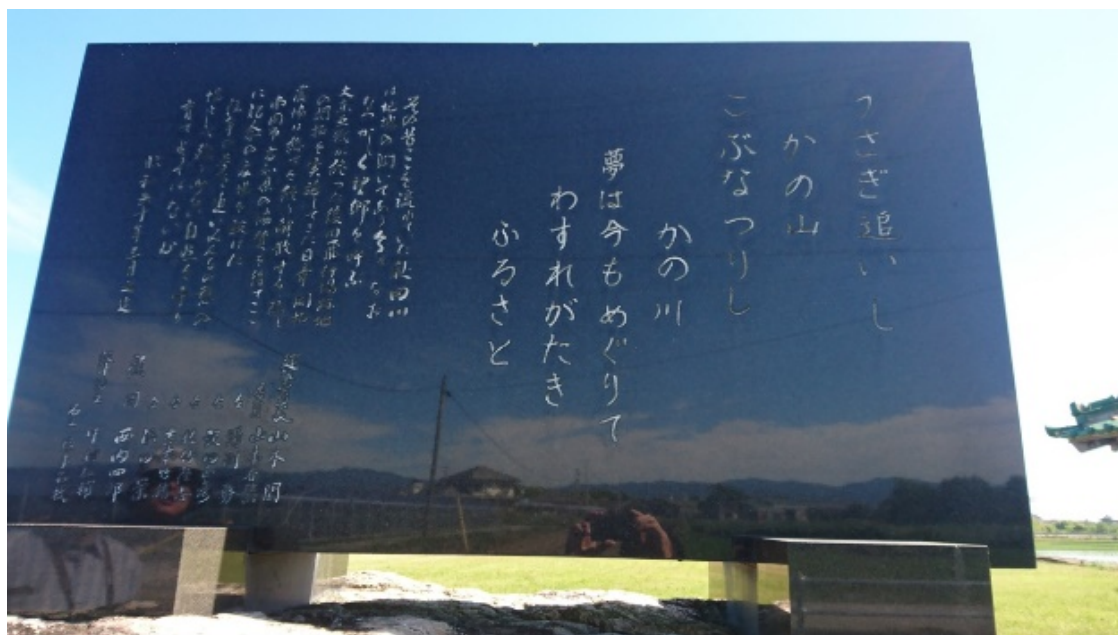




(近くの記念広場)



(記念碑の裏面)



(記念広場の碑文)

うさぎ追いしかの山 こぶなつりしかの川 夢は今もめぐりて わすれがたき
ふるさと

その昔ここを流れていた貝田川は地域の潤いであり なお懐かしく望郷を呼ぶ

大東亜戦が終わった後旧飛行場跡地の開拓を実施してまた日章開拓農協は総てを
を終り解散するに際し南国市高知県の協賛を得てここに記念の広場を設けた

往年の夢を追いみんなの憩いの場として残りの少ない自然を守り育てようではないか

昭和六十年三月之建